

21世紀の道、第二東名・ 名神高速道路の建設

三谷 浩
建設省道路局長

The 2nd Tomei, Meishin Expressway
for the 21st. Century

Hiroshi MITANI

Director-general, Road Bureau, Ministry of Construction

現東名高速道路が全通し今年は20年目をむかえる。また名神高速道路はその4年前に完通しており、以来両路線は日本列島の大動脈として、社会・経済活動の発展に大きな役割を果たして来た。東名・名神高速道路は総延長こそ県道以上の幹線道路網の0.3%に過ぎないが、輸送の面では全国自動車貨物輸送量の18%を担っており、他の道路に比して圧倒的な高密度で利用されて来た。

急激なモータリゼーションの進展のなかで、最近の平均交通量は1日6万3千台、混雑区間も全延長の94%に達し、飽和に近い状態となっている。

そのため第二東名・名神高速道路を整備して、現東名・名神高速道路と一体となって21世紀におけるわが国の基幹道路として機能する高速ネットワークを構築する計画が固まり、さる1月に国土開発幹線自動車道として、横浜市～神戸市間455kmの基本計画が審議会の議を経て策定された。

現在この基本計画区間について、全体計画の具体的な内容・路線・環境影響評価等について種々の調査検討を進めているところであるが、早急に重点区間について基本計画から整備計画への格上げ策定を進め事業着手にかかる方針である。

現東名・名神高速道路の建設は、ようよう本格化した道路整備の時代にあって、多くの最新技術の導入、開発がなされ、総合的な高速道路建設技術の確立をもたらし、大きなエポックメイキングとなった。またその後の運用によりソフトとハードの両面において新たなシステムが生れて来ている。

今回、第二東名・名神高速道路の計画を具体化していくのにあたって、来たる21世紀の社会・経済活動を担う高速ネットワークとして、新しい時代の要請に即ち適確に対応するシステムとして構築していくのが最上の基本目標である。現在の主な検討内容は次のとおりである。

(1)交通需要の見通しと計画・構造——産業経済・国民生活の向上は、道路交通の進展は量のみならず、質の面でも多様化し高度化をもたらした。更に利用者の普遍化や自動車の高性能化も著しい。これらの条件分析のもとに一層の高速性・定時性・安全性を確保すべく設計速度を140km/時以上に相当する各道路構造基準や地域との調和や環境保全の面も配慮した路線計画等について幅広く検討を進めている。なお現東名・名神高速道路とも適当な間隔で連絡し、一体となって機能させる方針である。

(2)事業の実施と種々の検討——大容量の高速交通を確保するために構造物が多くなり、また用地買収等巨額な事業費が必要となる。また現在の交通情勢からも緊急整備が必須である。したがって有料道路制度を活用し、現行のプール性に組入れて整備を進め21世紀の早い時期には完通したいと考えている。従来の12年建設パターンも出来るだけ短縮する施行手法、その他諸々の技術課題についても、関係者は懸命に取り組んでいる。

21世紀に至る道——第二東名・名神高速道路の整備はわれわれのみでなく出来るだけ多くの方々との知と力を結集して進めていかなければならない。一層の御協力と御支援を心からお願いする次第である。

原稿受理 1989年9月22日